第 20 回国際有害有毒藻類学会（ICHA 2023）のお知らせ

1987 年開催の高松大会，1995 年開催の仙台大会に続き，日本で 28 年ぶりに国際有害有毒藻類学会（International Conference on Harmful Algae: ICHA2023）が，広島市の「グランドプリンスホテル広島」で開催予定です。本学会は，国連教育科学文化機関（UNESCO）の要請を受けて設立された国際有害有毒藻類学会（International Society for the Study of Harmful Algae: ISSHA）が母体機関となって 2 年に一度開催されている，有害有毒藻類の研究者が一堂に会する世界最大規模の国際会議です。

広島大会の会合テーマは，「人と海の共存（HAB Science and Human Well-being）」です。藻類の異常増殖によって起こる有害藻類ブルーム（Harmful Algal Blooms: HAB）は，沿岸域の利用増加や産業・生活排水等に伴う富栄養化，船舶を介する原因藻類種の拡散，気候変動などにより，世界の水域で大きな問題となっており，その原因となる有害藻類の発生機構の解明や対策技術の開発が喫緊の課題となっています。本大会では，有害・有毒藻類が引き起こすこれら地球規模の問題解決に資するため，世界 40 ヶ国以上の研究者･行政･ステークホルダーが広島に集まり，最新の研究成果を発表するとともに，被害軽減に向けた議論，方策の立案，今世紀末の食料危機を念頭に人と海の調和的発展・水産物の持続的利用を重視したメッセージを発信することを目的としております。

日本藻類学会員の皆様に於かれましては，この機会を活用して国際有害有毒藻類学会の活動についてご理解をいただくとともに，是非，積極的なご参加をお願い申し上げます。

1. 会議名称

第 20 回国際有害有毒藻類学会（International Conference on Harmful Algae: ICHA2023）
主催：第 20 回国際有害有毒藻類学会 実行委員会
共催：広島大学

2. 会期および会場・開催形式

2023 年 11 月 5 日（日）～ 10 日（金）
グランドプリンスホテル広島（広島県広島市南区元宇品町）
対面による口頭・ポスター発表のみ（使用言語：英語）

3. ホームページ URL（参加申込み受付など）

https://icha2023.org/

ICHA2023 実行委員会（担当）：
今井一郎・鈴木敏之・中山奈津子・神山孝史・山口峰生・板倉茂

アオミドロ語誌拾遺（1）：陟厘の語源と意味

仲田 崇志

前号『語誌 (3)』では陟厘（陟釐）が，日本では元アオノリを，後に淡水糸状藻を指したことを紹介した。では中国における本来の意味はどちらだろうか。

『拾遺記』（王嘉，4 世紀後半成立）によると，陟厘は南越（前 203– 前 111 に，中国南部からベトナム北部に存在した国）の側理紙（側理）を指した。両者は発音がよく似るため（図），聞き間違いなどで側理が陟厘に変化したのだろう。側理紙は海苔（アオノリ）でできた紙（板海苔のようなものか）のことで，その理（すじ）が不規則に側（かたむ）いたことに因む。単に陟厘と呼ぶ場合には，原料であるアオノリを指した。後の『正字通』（張自烈，1680 年序）も陟厘を海藻としている。

『本草綱目』（李時珍，1596 刊，金陵本 21 巻 3 丁表）は陟厘の異名に「河中側梨」を挙げ，また「池澤」に生じると引用した。前者は，「淡水産の河中側梨も海産の陟厘の仲間である」という意図と読める。また「池澤」の記述は『名医別録』（1–3 世紀ごろ成立）に依るが，同書では海藻や牡蠣（かき），烏賊（いか）魚なども「池澤」産とされていて（森 2018．名医別録解説），古くは淡水・海水の区別が重視されなかったことがわかる。これらの記述が林羅山（1583–1657）ら江戸時代の学者の誤解を招き，日本で陟厘が淡水藻を指すことになってしまったようだ（前号『語誌 (3)』参照）。

	上古音	中古音	現代語
陟釐	tɪək-lɪəg	ʈɪək-lɪəi	zhì-lí
側理	tsïək-lɪəg	ʈʂïək-lɪəi	cè-lǐ
側梨	tsïək-lɪer	ʈʂïək-lɪi	cè-lí

上古音（周～漢代ごろの発音）・中古音（南北朝時代～宋代初期の発音）・現代標準中国語における，陟厘（陟釐）と側理・側梨の発音比較（『拾遺記』は漢代と南北朝時代の間に東晋で成立）．上古音･中古音は『学研新漢和大字典』の表記（pp. 2104–2146）で，現代標準中国語は漢語拼音でそれぞれ示した．